# 中世真言宗における諸宗教学の受容について

## ——富山大学附属図書館ヘルン文庫蔵『王心鈔』翻刻——

野呂靖

### はじめに

中世における根来寺僧によって展開した教学を解明するにあたり、重要な視点の一つが諸宗教学の受容である。鎌倉中後期にかけては、凝然（一二四〇～一三二一）『八宗綱要』・『内典塵露章』や円爾（一二〇二～一二八〇）『十宗要道記』、存覚（一二九〇～一三七三）『歩船抄』など、八宗・十宗の枠組のなかで諸宗における自宗の位置づけを教理的に明らかにする文献が数多く撰述された。[1] なかでも真言僧に関わるものでは、頼瑜（一二二六～一三〇四）による『諸宗教理同異釈』一巻・『顕密問答抄』二巻があり、法相・三論・天台・華厳を中心に南都諸宗の教学が詳細に比較されており重要である。[2] 頼瑜は根来寺大伝法院の再興に尽力し、多数の聖教類の収集や著述を行ったことで知られているが、若年期には南都に遊学し三論・華厳・唯識を学ぶなど諸宗の教学を積極的に受容していた。[3] また近年、真言宗智山派総本山智積院「新文庫」聖教の悉皆調査によって、頼瑜以降の根来寺僧においても南都との密接な関係のなかで因明・倶舎・法相関係など多数の著述が著されていることが明らかとなった。[4] これらの資料群を検討することによって、中世の根来寺僧が諸宗教学のなかにいかに真言教義を位置づけていったかが窺われるとともに、従来資料的制約から不明であった鎌倉後期から室町期にかけての南都教学

の特徴を明らかにすることができるように思われる。

本稿では、そうした根来寺における諸宗教学の受容を検討する一貫として、中性院第四世であり根来寺大伝法院学頭として真言論義の大系化を行った聖憲（一三〇七～一三九二）の撰述による『王心鈔』一巻を取り上げたい。本書は頼瑜の著述と同様に倶舎・法相・三論・天台・華厳の五宗についてその歴史と教理の要点がまとめられたもので、やはり綱要書的な性格を有した小篇である。本書は従来、翻刻がなされておらずその教理内容についても未検討であったが、とくに智積院第七世能化である運敞（一六一四～一六九三）所持本を始め江戸中後期に多くの伝本が流布しており、近世の新義真言宗における諸宗理解の基礎文献として重用されたことが知られる。また、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲／一八五〇～一九〇四）が所蔵した唯一の日本撰述の仏教写本としても注目される。[5] 以下、『王心鈔』の概要を紹介し、翻刻を付すことで今後の検討材料に資したい。

## 一、『王心鈔』の諸本と撰述者について

### （1）諸本について

はじめに『王心鈔』の現存諸本を整理したい。現存する『王心鈔』のテキストとしては計一五点が確認できる。

【王心鈔現存諸本】書写年代順

①智山（安永八［一七一一］年浄光写）、②成田（明和九［一七七二］是忍写）、③富山大ヘルン文庫（文化八［一八一一］慧岸写）、④智山（文化八［一八一一］年懐善写）、⑤智山（文政三［一八二〇］）、⑥智山（文政一三［一八三〇］宥明写）、⑦智山（天保二［一八三一］年円明写）、⑧智山（天保二［一八三一］年

明弁写)、⑨成田(天保三[一八三二]頼如写)、⑩智山(天保一一[一八四〇]年義観弘現写)、⑪大谷(嘉永四[一八五一]写)、⑫成田(安政四[一八五七]慶基写)、⑬龍谷(文久二[一八六二]写)、⑭智山(書写年不明、教如写)、⑮智山(書写年不明)

※略号:「智山」=智積院智山書庫、「成田」=成田山仏教図書館、「大谷」=大谷大学図書館、「龍谷」=龍谷大学大宮図書館

書写年が判明する諸本は文久二(一八六二)年を下限とするいずれも江戸中後期のものであり、近世に広く流布したことが知られる。このうち最も古い書写年を有するのが智積院「智山書庫」所蔵の安永八(一七一一)年の一冊であり、以下の奥書がある。

本云中性院務聖憲依或人所望/為犬鳴記之給〈云云〉/王心鈔者聖憲二字各々下王心取王心鈔付給也/依運敞和尚之命書写之/明暦二年春正月日　分操/

(朱書)安永八年己亥六月以智積院密厳堂経庫運敞所持之御本書写了/金剛仏子　浄光/

これによれば、聖憲がある人の依頼により「犬鳴」にて記したもので[6]、『王心鈔』という名称は「聖憲」の二文字のそれぞれ下部(王・心)を取って名付けたという。また、明暦二(一六五六)年に運敞の命により書写されており、浄光はその運敞所持本を写した旨が記されている。智山書庫本を含む上記の諸本いずれの奥書においても①名称の出来、②運敞の命による書写という二点の情報は共通しており、それを時代的に遡るテキストは現存しない。現在、智積院密厳堂経庫における運敞所蔵の聖教は「運敞蔵」として一括して現存するが、残念なが

ら「運敞所持本」自体の所在は不明である。いずれにしても運敞が本書の流伝に大きな功績を有していたことは疑いない。

ただし、諸本ともに聖憲自身による奥書は付されておらず、この点がやや不審である。もっとも、従来聖憲の撰述を疑う疑義は示されておらず[7]、疑いを挟む積極的な根拠もない。また、文政一三（一八三〇）年写の智山書庫本、文久二（一八六二）年写の龍谷大学所蔵本には首題下に「聖憲記」との識語が確認できる。「王心鈔」すなわち「聖憲による抄物」という書名からも、聖憲の抄出した内容に何らかの時点で書名が付加され伝持されたものと考えるのが妥当であろう。

### （2）犬鳴と根来寺の関係について

ところで本書の撰述地とされる「犬鳴」であるが、これは葛城修験の一院、七宝滝寺が存在する泉州犬鳴山（現・大阪府泉佐野市）と考えられる。この泉州・犬鳴の地が聖憲と深いつながりを有していたことは重要である。すなわち聖憲は「和尚名聖憲、字定林、泉州人」とされるように和泉国の出身であり[8]、青年期には泉州久米多寺に止住し華厳を修学した。なかでも久米多寺においては、久米多寺第三世（東大寺戒壇院第六世）の明智房盛誉（一二七三～一三五一）に師事し、建武元（一三三四）年四月十七日から六月まで実施された盛誉の『華厳五教章』講義を聴講し、その聞書である『五教章聴抄』六巻を撰述している[9]。

また、中世後期においては犬鳴を含む泉州の葛城修験の寺院が「根来寺末」であったという点も注意したい[10]。戦国期における七宝滝寺について検討した井田寿邦氏は、和泉国日根荘の支配に携わった九条政基（一四四五～一五一六）『政基公旅引付』に「犬鳴山七宝滝寺別当真福院・泉定坊等」（文亀二年七月二一日条）とあり[11]、この別当真福院と泉定坊とが「泉定と云ふは根来真福院弟子なり」（永正元年三月二九日条）とされるように根来寺

僧であったことを指摘し、「戦国時代においては根来寺の寺僧が別当となって七宝瀧寺を支配していた」とする。[12]

聖憲がいかなる時期に本書を撰述したかは『結網集』など聖憲の伝記を伝える資料にも記述がなく未詳であるが、根来寺僧であった聖憲が犬鳴にて本書の執筆を依頼されたという奥書は、聖憲と泉州との密接な関係を示すものとして注目される。

## 二、『王心鈔』の概要

### (1) 諸宗理解の枠組み

本書では、冒頭に以下のように諸宗の位置づけが示される。

本朝流布宗有二八宗一者、律・倶舎・成実・法相・三論・天台・花厳・真言也。律諸宗学処、仏弟子通軌定則、不レ可レ為二一宗。成実源出二僧祇部一、僧祇部中者訶梨跋摩論師、捜二大乗義一釈二小乗一。本朝付二三論宗一雖レ学レ之至レ今大底廃。故今盛流行六宗也。(ヘルン文庫所蔵本、一右)

ここでは、「本朝流布の宗」として律・倶舎・成実・法相・三論・天台・華厳・真言の八宗が挙げられる。ただし、律は「仏弟子の通規」であるため一宗として宗を形成しえないとして除外される。この立場は、同様に八宗・十宗の綱要を述べた凝然『八宗綱要』や円爾『十宗要道記』、存覚『歩船抄』などが共通して律宗を「一宗」と認めている立場と比べて特徴的である。ただし、頼瑜の『諸宗教理同異釈』においては、「教について同異を弁ず」と述べられて「諸宗」を「教」に限定することで、[13]やはり律宗には言及されず、法相・三論・天台・華厳

のみが取り上げられている。本書もこの立場を継承したと考えられる。

また、成実宗については「三論の付宗として学ばれるも現在は廃れている」と指摘される。なお、真言宗については実際には概説されていない。そこで実質的に本書で取り上げられるのは、倶舎・法相・三論・天台・華厳の五宗となる。以下、各宗の概要を紹介したい。

### (2) 倶舎宗

はじめに倶舎宗では、「倶舎宗者小乗教也」(一左)と簡潔に定義された後、上座部・大衆部の分派と上座部より説一切有部が生まれ、『大毘婆沙論』二百巻が著されたこと、さらに仏滅後九〇〇年に世親によって『倶舎論』がまとめられたという歴史的経緯が概説される。続いて教理については、①二乗(声聞乗・辟支仏乗)、②行位(七方便・四向四果)が長文にわたって取り上げられる。

全体的にとくに特異な解説は見当たらないが、例えば五位七十五法など諸法の分類については一切言及されておらず、断惑の次第など修道説の解説に重点が置かれている点が特徴的である。また、「且就二大小相対義門一明レ之」(同、一左)とされ、随所に大乗・小乗とを対比させながら倶舎教義が解説されており、最後に『涅槃経』の満字(大乗)・半字(小乗)の教説に基いて、大乗・小乗の教理には八点に及ぶ相違があるとして両者の区別を明確化する。[14] このように倶舎宗においては「小乗教」という位置づけのもとに、修道説を中心にその教説を整理する点に特徴が認められる。

### (3) 法相宗

法相宗は、本書において最も分量が割かれている項目であり、①三時教判、②五重唯識説、③八識説、④三性

三無性説、⑤四分説、⑥三科、⑦五姓各別説、⑧行位説、⑨宗の相承の八点について解説される。なかでも本書の法相宗に対する理解が典型的に窺えるのが以下の記述である。

> 法相宗者、広明二三科百法等法相一宗故、号二法相宗一。解深密経有二法相品一、以レ彼為二得名所拠一。余宗談二真如法性随縁成二諸法一、故法性之外全無二事々諸法一。此宗依他事法各々阿頼耶識中有二法爾新熏二種子一、自二彼各々種子一生二彼々諸法一。真理凝然不レ作二諸法一。々性之外有二々為事相一歴然存。真理正智所証、事相後智境界。事理分レ岐性相異レ徹、性相倶談明二事相一異二余宗一故、以二法相一為二一宗別称一。（同、六左～七右）

ここでは、広く三科・百法などの「法」を明らかにする点に宗名の由来が指摘されているが、とくに「事・理岐を分かち、性・相徹を異にして性・相倶に事相を談ずれども余宗と異なるが故に」とするように、事象と理性とを明確に分離する点が法相宗の教理の特徴であると強調し、宗名の根拠もその点に求めている。この立場は頼瑜が『諸宗教理同異釈』において、「初法相宗意、有為諸法実性云二無為真理一也。所謂性相永異、事理全別。」[15]と主張している点と一致する。つまり性・相の両面を説いてはいても結局は「相」のみを示すにすぎないとみなすのが頼瑜や『王心鈔』など真言における綱要書の理解といえるだろう。

### （4）三論宗

次に三論宗であるが、「三論宗者、凡立二宗教之習一、通二串一代教義一、訪二摂四依論蔵一。然殊以二中百十二三論一為二別所依一故、世人呼為二三論宗一。」（同、一三左）と簡潔に示された後、①教判説（二蔵判・三転法輪）②八不中道、③二種生死、④宗の相承が説かれるという構成である。

ここで最も強調されているのが先の法相と三論の両宗がともに「権教」「三乗」であるという点であり、次のように述べられる。

已上両宗（＝法相・三論）、云二権実一宗一時云権教。云二三乗一乗一時云二三乗教一也。法相宗立二五姓各別義一計二三乗定性一云二三乗教一、尤有二其謂一。三論宗談二一性皆成旨一専簡二五性各別宗一。何云二三乗教一耶。尤可レ謂二一乗教一耶。且花厳天台為二一乗宗一事三乗方便一乗真実云故也。今宗、仏説二三乗一其中菩薩為二真実一以二一乗一為二方便一。設法花説二三乗方便一実方便但云二一乗一也。着二垢衣一長者、居二師子床一長者、々々是一也。約二今簡異一説二三乗方便一約二其内身一非レ有二二人長者一故、不レ許二別有二一乗一、云二二乗教一也。又権教者不レ顕二実理一之名也。一乗経者、指二一乗理一為二実理一。相即円融無碍教義也。然一論宗、対二説三乗一三中一為二一乗一故、設雖二仏乗一其義浅近、未及二十々無尽・三諦即是法門一。故一乗宗学者猶云二権教一也。（同、一七左～一八右）

ここでは、法相・三論の両宗は「権教」・「三乗」ではあるものの、五姓各別を説く法相宗と比べれば三論は「一性皆成」を説いているのであって一乗教というべきではないか、との疑難が示される。これに対し、「権教」とは「実理」すなわち「一乗の理」を表していない点からいうのであって、「相即円融無碍」の教義こそが「実理」であるとする。したがって、具体的には華厳の「重々無尽」や天台の「三諦即是」の法門に到達していない点から三論は権教であると指摘されるのである。

### （5）天台宗・華厳宗

そこで、最後に「一乗教」である天台宗・華厳宗が示される。両宗は実際には分けて説かれるが、両宗の解説

部分は相互に関連する箇所が多いため、ここではまとめて確認しておきたい。

まず天台宗であるが、「天台宗者、智者禅師以二法花一為二依経一立二四教五時一摂二一代教義一述二会三帰一之旨一示二開権顕実之義一。」（一八右）として、①宗の相承、②四教判（化法・化儀）、③五時判、④一念三千、⑤三諦説、⑥行位説（六即）、⑦仏身説について概説する。

これに対し、最後に取り上げられるのが華厳宗であり、これまでの倶舎・法相・三論・天台に対して最も勝れたものとして位置づけられている。教理的には、①宗の相承、②五教判、③同別二教判、④華厳経の説時、⑤円教の行位、⑥三種円融説、⑦六相円融説、⑧一生成仏・三生成仏説、⑨仏土説の九点が解説される。

このうち注目されるのが、天台宗との浅深を強調する点である。

第一に五教判における「頓教」の説明では静法寺慧苑（六七三?～七四三?）『刊定記』の法蔵に対する批判が言及されている（同、二三右）。すなわち、澄観（七三八～八三九）が天台の化儀四教における頓と、華厳の五教における頓とは名称は同じでも質的に異なり、華厳の場合は一類の機根のために「教」として別立したものであると解釈する箇所を前提とした議論を引用する[16]。つまり、ここでは慧苑による「五教判の頓教という概念は天台の影響下に成立した」とする見解を否定することで、天台との教義的な差異が強調される構造となっているのである。こうした頓教をめぐる慧苑と澄観の議論自体はよく知られているものであるが、綱要書的な性格を持つ本書にあえて付記されることは異例である。

第二に、「円教」では「同教一乗浅、別教一乗深也」と同別二教判の浅深を位置づけた上で、「花厳説二別教一、法花多分説二同教一乗一」（同、二三右）と指摘する。これによって、天台は華厳に比べて「浅」ということになる。その上で、別教一乗では蓮華蔵世界を「本」とするのであり、天台の霊山浄土はその蓮華蔵世界に包摂されるという点、天台は声聞に対し「廻小入大」を説くが華厳は三乗の人とは隔絶している点が「花厳天台の二宗浅

深」であると指摘し、華厳がより根本の教であることを述べている。

東大寺の華厳宗における華厳・天台の位置づけについては奈良時代の寿霊『華厳五教章指事』などの注釈書においても取り上げられる問題であるが、基本的に法華と華厳の同一性が強調される傾向が強い[17]。これに対し、頼瑜は華厳・天台の相違は、聖説（経典）と人師説との相違、性起と性具との違いの二つの立場から華厳の優位を強調している[18]。本書における天台・華厳との比較は、こうした真言僧による華厳理解を踏まえたものと考えられる。

また、教理的な特徴については三種円融説（事事・理理・事理無碍）に言及している点が注目される。この解釈はやはり『諸宗教理同異釈』においても言及されており[19]、四法界説（事・理・理事無礙・事事無礙）を主流とみる鎌倉時代以降の東大寺華厳の法界理解に比べて特異である。ここでも『王心鈔』の理解が、頼瑜以来の根来寺における華厳学理解を継承していると見ることができる。

最後に、本書の六相円融義に関する記述に聖憲による『五教章』注釈書と一致する点があることを指摘しておきたい。

『王心鈔』

此中以二事々無碍一為一宗規模。成二此事々無碍義一事、依二十玄縁起六相円融一。十玄祖師義立也。六相出二本経十地品一。至相大師〈智儼事也〉見二花厳経一一微塵摂二十方世界一入二遠々劫海一説。見レ之大疑、以二自力不レ堪析二冥感一空中有レ声可レ思二惟六相義一〈云々〉。其後見二六相文一一多相容義煥然〈云々〉。（二五右）

聖憲『五教章中巻聴抄』

此宗々義十玄六相是也。但十玄祖師義立也。六相源自十地品出。十地論稟之釈。円融無礙源底事々相融尽理也。至相大師花厳経事々無礙等説、一微塵三世十方等摂入等事説故。余不審析請冥感給ケルニ空中有声。思惟六相義〈云々〉其後六相義思惟シテ事々無礙義被意得ケリ。（巻下、日仏全六九、四九九頁上）

ここで『王心鈔』が述べているのは、智儼が六相円融義を理解したのは「冥感」によって空中の声を聴いたことが契機であるとする伝承である。この智儼と六相円融義に関する伝承は法蔵『華厳経伝記』巻三の記述に遡ることができるものであるが[20]、『華厳経伝記』では「異僧」の登場が描かれるのみであり、①智儼が事々無礙の教理を理解できず、②祈請を行い、③空中から声が聞こえる冥感を得たとする内容は記述されていない。また、東大寺華厳においても同様の用例は見いだない[21]。一方、聖憲の聞書である『五教章中巻聴抄』には同文が検出される。『王心鈔』には聖憲が記録する特徴的な智儼伝が反映されているとみて良いであろう。

## 三、まとめ

以上、『王心鈔』の概要について検討を行った。

『王心鈔』で取り上げられる倶舎・法相・三論・天台・華厳の五宗の配列は、単に漫然と並列されているのではなく、教理的な浅深に対する明確な意識のもとに配列されている。すなわち、小乗（倶舎）から性・相を明らかにする大乗（法相・三論）へと向かい、三乗（法相・三論）から「円融の実理」を説く一乗（天台）へと進んだ後に、最終的に高度な円融説を説く別教一乗（華厳）が示されるという構造を持っている。つまり、性・相に対する理解の相違や円融説の深まりなど現象世界をどのように捉えるかという一貫した視点から諸宗が整理されているのである。こうした諸宗の次第や華厳の教理を真言宗に次いで重視するという理解は、いうまでもなく『十住心論』に由来するものであり、頼瑜『諸宗教理同異釈』など真言宗の基本的な諸宗理解となっているが、本書はそうした理解を継承しつつ、再度教義的な整理を行ったものとみることができるであろう。

本書は江戸時代中期の智積院において盛んに書写されていった。その契機をなしたのが運敞である。運敞は堂

宇の整備や聖教の収集整理を精力的に進め、現在の智積院の基盤を形成した学僧として著名であるが、なかでも重要な業績が聖憲の『大疏第三重』、『釈論第三重』に対する注釈『大疏啓蒙』『釈論啓蒙』やそれぞれの概要書『大疏談義』『釈論談義』を撰述し智山の論義を整備した点に求められる。[22] 運敞の教学的立場そのものについては十分に明らかとなっていないが、聖憲教学の顕彰を行い、それによって智山教学の興隆を図ろうとしたことは間違いない。そうした近世の智山教学における諸宗教学の枠組みとなった点においても本書の意義は大きいと思われる。

【付記】本稿において使用した資料の閲覧・撮影・翻刻に際し、富山大学附属図書館ならびに真言宗智山派御当局より多大なご厚情を賜りました。記して感謝申し上げます。／本稿は平成二六年～二八年度科学研究費若手研究(B)「中世新義真言寺院における華厳思想に関する研究」（課題番号：26770024）の成果の一部である。

## 【翻刻】富山大学附属図書館ヘルン文庫蔵『王心鈔』

一、本翻刻は、ラフカディオ・ハーンの旧蔵書であり、現在富山大学附属図書館ヘルン文庫に所蔵されている写本『王心鈔』一巻（一冊）の翻刻である。書架番号は「二三五八」（『富山大学附属図書館所蔵ヘルン文庫目録　改訂版』富山大学附属図書館、一九九九）。本写本は奥書に「文化八年春閏二月以浄光僧正本謹写其本観如阿闍梨所蔵也　求法沙門武州慧岸」とするように、現存諸本のなかでは最古となる安永八年浄光書写による智山書庫本を武蔵国の慧岸なる僧侶が書写した一本である。書写時期はやや下るものの、智山書庫本と比較するにわずかな文字の異同を除いて本文的に一致し、むしろ教理に関わる文字の誤りが少ない。よって、教理内容を把握するためには本資料の意義が大きい

と判断し翻刻を行うものである。

二、本資料の書誌情報は以下の通りである。

［装丁］冊子装　［法量］縦：二三・〇糎、横：一六・二糎、一面：一〇行、二〇字、全二七丁（表紙含まず）

［表紙］原表紙は柿渋であり、後補表紙と重ねて綴じられている。［表題］題簽に「王心鈔　全」と墨書。

［内題］「王心鈔」　［尾題］無　［識語］原表紙右下に「慧岸」と墨書

［備考］内題上部に朱印あり（「小泉八雲」）。訓点あり（朱点による声点・合点・返点・朱引・注記）。原表紙見返しに「倶舎、法相、三論、天台、華厳」と鉛筆による書入あり。

三、翻刻にあたっては以下の形式に基づいた。

①改行については紙幅の都合上、原資料通りの改行とせず追い込みとした。ただし、各宗の項目が改まるなど意図的な改行箇所については原資料通りとした。また奥書についても原資料の行取りを反映した。

②本文中に使用されている旧字・異体字は、通行の字体に改めた。また、「シテ」「コト」「トモ」などの片仮名の略字については開いて表記した。朱書による合点、声点、及び朱引については省略した。

③割注は、該当箇所を〈　〉にて括った。

④本紙上欄に付された朱字による校合の注記についてはその内容を注によって示した。ただし略字などの字体の相違に関する校合注は省略した。

⑤虫損等により判読不能の文字については、□によって字数分の空格を示した。

（1右）

王心鈔

本朝流布宗有二八宗一者律倶舎成実法相三論天台花厳真言也律諸宗学処仏弟子通軌也別不レ可レ為二一宗一成実源出二于僧祇部一々々中有二訶梨跋摩論師一捜二大乗義一釈二小乗宗一本朝付二三論宗一雖レ学之至レ今大底廃絶故今盛流

行六宗也

倶舎宗者小乗教也凡小乗有二二十部一如来滅後一百十六年依摩訶提婆一初有二一宗一一名二上座部一一名二大衆部一迦葉結集三蔵学習人云二上座部一迦葉仏弟子上座故也界外大衆結集三蔵学習人云二大衆部一

（1左）

雖レ有二一部結集一百年中更無二異計一其後次第自二上座一出二十一部一自二大衆部一出二七部一合二本一部一廿部也文殊問経十八及本二皆従㉔本乗出者是也是上座部支流有二説一切有部一云二薩婆多宗一是也廿部之中此部殊流二行五印一迦湿弥羅五百羅漢即是部論師也仏滅後四百年之時於二迦湿弥羅国一依二脇尊者請一以二法救妙音世友覚天四人一為二評家一各以二十万頌一重釈二仏所説三蔵一即以二六足発智義言一為二依憑一是号二大毘婆沙論一今流布二百巻論也仏滅後九百歳時世親論主彼婆沙一遍講撰二彼要義一結二一頌一如レ是々レ々六

（2右）

百遍講結二六百行頌一今倶舎論是也是倶舎論宗二薩婆多一意許二経部之義一也有部論中此論殊勝故本朝伝来号二倶舎宗一略二部計異論一且ク就二大小相対義門一明レ之小乗教有二一種一一声聞乗二一支仏乗也小乗教中雖レ立二菩薩乗一大乗判時属二一乗一故諸教小乗但云二一乗一也声聞乗者依二声教一修行得道故簡二異独覚無師自悟一云二声聞乗一就二此声聞乗一行位大分二一一有漏二無漏於二有漏位一有レ七〈云二七方便一〉一五停心〈因縁停心不浄停心界差別停心慈悲停心数息停心〉二別想念住二惣想念住〈已上云二二賢一〉四煖善根五頂善根六忍善根七世第一法〈已上云二四善根一〉是即

（2左）

七方便也入二無漏一方便故第二無漏位於レ中有レ八四向四果也所謂預流向〈見道也十五心〉預流果一来向一来果不還向不還果阿羅漢向阿羅漢果也前七有学阿羅漢果云無学二前七中初一見道後六修道也見道十五心断二三界見惑一十

五心者観ニ上下八諦一各有二無間解脱一第八解脱道第十六心〈預流果也〉無間道断レ惑解脱道証二惑滅一見惑有二八十八使一凡見惑者迷二四諦一惑〈十随眠也〉迷二欲界四諦一惑有二三十二一謂苦諦十随眠貪瞋慢無明疑身見辺見邪見々取戒禁取見也集滅各有レ七除二身辺戒禁取一道諦有レ八前七加二戒取一上二

（3右）

界〈色界無色界〉四諦各除レ一四諦下瞋也於二上界一無二瞋煩悩一故也故色界廿八無色界廿八合五十六并二欲界卅二一八十八使見惑也観二欲界苦一刹那断二若苦諦迷十随眠一観二上二界苦一刹那断二上界苦諦迷十八使等一自余准二思之一預流果見惑断尽果也一来向断二修惑二一切断道必向道也〈約二聖者一言レ之〉於二欲修惑一立二一来不還二果一於二上二界修惑一立二阿羅漢果一也欲界修惑有二九品一前六品一来向断レ之下三品不還向断レ之上二界有二八地一即四種四無色也八地各有二九品修惑一七十二品修惑也阿羅漢向断レ之見修二惑者迷理惑云二見

（3左）

惑一迷事惑云二修惑一不レ過二十随眠一於レ中疑五見唯見惑也貪瞋癡慢四通二見修一此十随眠為レ主有二随従惑一合云二見修二惑一也九地者一欲界五趣地二離生喜楽地〈初禅〉三定生喜楽地〈第二禅〉四離喜妙楽地〈第三禅〉五捨念清浄地〈第四禅〉六空無辺処地七識無辺処地八無所有所地九非想非々想地也見惑易レ断立二一果一〈預流果也〉修惑難レ断立二三果一預流者流々類也初預二聖者流類一位故云二預流一一来者欲修惑六品断時彼往二天上一一来二人間一故云二一来一欲界下三品修惑断復不二還一生欲界一故云二不還一阿羅漢者不生義三界修惑断尽更

（4右）

無二受生一故非想地第九品修惑断無間道云二金剛喩定一解脱道云二阿羅漢果一即以二尽無生智一為レ体羅漢有二利鈍一利根羅漢於二解脱道一発二尽智一次起二無生智一鈍起二尽智一不レ発二無生智一鈍根有退故也羅漢有二六種姓一退法思法護法安住法堪達法不動法也前五鈍根第六利根也於二利根一有二錬根一有二本姓一錬根云二不動一本姓云二不退一云二六種姓一時不動

不退合云云不動種姓ト也此利鈍ハ見修二道ニモ有レ之見道ニハ随信行ト〈鈍〉随法行ト〈利〉云修道ニテハ信解〈鈍〉見至ト〈利〉云也羅漢徳中有ニ六通三明一六通者天眼通天耳通神境通宿住通他心通漏尽通也

（4左）

三明者即三世明達智也六通中天眼ハ〈如ニ未来一〉宿住ハ〈知ニ過去一〉他心〈知ニ現在一〉利根羅漢明了得ニ三通一也辟支仏者古訳ニハ云ニ因縁覚一新訳ニハ云ニ独覚一倶舎婆沙中説文微少也本姓不レ好ニ楽声教一人出ニ無仏世一見ニ飛花落葉等一覚ニ世間之無常一唯独修道先凡位断惑凡位断者以ニ有漏智一下八地惑五部合断有漏智者厭下欣上観也三界九地々々相望下地厭ニ麁苦障一上地欣ニ静妙離一五部者四諦修道也即見修二惑也地々九品別断有漏智不レ能レ断ニ有頂地惑一無レ可レ欣ニ上地一故如レ是行間必歴ニ百大劫一也百大劫満已一座成覚一座者

（5右）

有ニ二説一一始従ニ不浄観一至ニ成仏一二始従ニ煖善根一至ニ成仏一云ニ三十四心断結成道一ニ三十四心者見道ノ十六心并断ニ有頂地修惑一九無間九解脱合十八心并ニ見道一ニ三十四念也見道十六心観ニ上下八諦一断ニ八十八使見惑一然下界見惑凡位已断レ之何又用レ断レ之而光釈云非レ要ニ断惑一起ニ欲法智上〈見道也〉為レ観ニ諦理一起ニ斯法智一〈文〉起ニ見道一事為レ見ニ諦理一未下必為ニ断惑一起中見道上故々於ニ凡位一下八地見惑已断有漏智未レ見ニ諦理一故起ニ見道一也是曰ニ擬儀道一也此人極嫌ニ声教一縦度レ人時現ニ神通一令レ感ニ激彼一不レ用ニ言説一此独覚中有ニ二類一一麟喩二一部

（5左）

行也麟喩本姓独覚也部行独覚先世声聞人可ニ解脱一生遇ニ無仏世一因ニ先世熏力一独悟道仮令預流果聖者受生不レ過ニ七生一然忘却得ニ聖果一七返受生彼第七生無仏世又依下無中可ニ受生一道理上故於ニ第七生一無師法然起ニ無漏智一断結成道独覚百大劫者麟喩独覚也部行独覚四生以上至ニ百大劫一声聞極速三生極遅六十劫也是小劫者一増一減合為ニ一劫一大劫者成住壊空四劫合為ニ一劫一故々八十小劫合為ニ大劫一数一也大途声聞独覚二乗望ニ大乗一無レ異其中小異

云、者五同六異七異三同等異見セリ行声聞四諦十六

（6右）

行相也独覚十二因縁也四諦者苦集滅道苦諦有四行相非常苦空非我也集諦因集生縁滅諦滅静妙離道諦道如行出以各々四行相観各々諦也〈是云十六行相〉十二因縁者無明等如常三世両重因果也謂過去二因〈無明行〉現在五果〈識名色六処〉現在三因〈愛取有〉未来両果〈生老死〉也断惑染汚無知無異断不染無知有浅深故縁境有寛狭声聞知二千世界事独覚㉙三千世界事根性声聞通鈍利縁覚局利根本性利根故無錬根道廻心声聞忍善根転成独覚々々善根起無転声聞又大小相対涅槃大乗云満字教小乗云

（6左）

半字教事小乗諸法門大途半説故也其故惑有入法二執小乗断人執不知法執八識中小知六識不知七八二種生死中小知分段生死不知変易生死界内界外小知三界分斉不知有界外浄土仏四智中得妙観察智一分余三智全不得所知境小三千界大無数世界也小以入寂無余為究竟不知有仏果大用小十方世界思一仏出世一須弥世界各々不知一仏出世〈但小乗部計不同也今付有部宗計言之也〉如是事類差別繁多〈云云〉

法相宗者広明三科百法等法相宗故号法相宗解

（7右）

深密経有法相品以彼為得名所拠余宗談真如法性随縁成諸法故法性之外全無事々諸法此宗依他事法各々阿頼耶識中有法爾新熏二種子自彼各々種子生彼々諸法真理凝然不作諸法々性之外有々為事相歴然存真理正智所証事相後智境界事理分岐性相異徹性相倶談明事相異余宗故以法相為一宗別称凡此宗一代説教為三重説是云三教初時有教説依他有第二時空教第三時中道教也大途説時前後也正義理

浅深為ニ次第一也初時教者凡情有執頓難レ抜故為レ遮ニ人我執一且許ニ法体ノ

（7左）

有一此有者仏恵全中道有也即レ空有云ニ中道一故説ニ初時有一時頓悟人悟ニ中道一也然為レ順ニ機情一隠ニ空辺一顕ニ有辺一故云隠密教一四阿含等説ニ法有我無一経是也第二時諸部般若説ニ諸法空一経是也初時説ニ有之時二乗等滞ニ有執一故為レ抜ニ彼有執一説ニ諸法空一此宗中道空故空有偏執倶空言猶賞レ空故密ニ中道一也以上二教未レ顕ニ説本意一云ニ隠密教一又号ニ不了義経一矣第三時者中道教楞伽深密等究竟了義大乗也中道有レ二一遮詮二一表詮凡中道者不レ留ニ有空辺路一之名也故遮ニ辺路有空一云ニ非空非有一為ニ遮詮中道一也此非空非有法

（8右）

有融レ空々融レ有故亦無義是云ニ表詮ノ中道一此中道教顕ニ仏本懐一永絶空有偏諍一故云ニ無容無諍教一花厳雖ニ最初ノ説一々ニ中道了義一故為ニ第三時教一遺教雖ニ涅槃後説一々有故為ニ初時教一也於ニ時字一有ニ委曲一矣此宗以ニ唯識観門一為ニ至要一唯識者一切諸法各々能縁心所ニ変現一也唯識観有ニ五重不同一一遣虚存実識虚遍計所執実依他円成也心外妄境遮唯能縁心観時是心依円二性也二捨濫留純識濫依他内境混ニ濫遍計妄境故捨レ之内心無レ濫留観ニ唯識一二摂末帰本識摂ニ見相二分末一帰ニ自体分本一四隠劣顕勝識隠ニ心所劣一

（8左）

顕ニ心王勝一云ニ唯識一五遣相証性識遮ニ遣一依他事相一証ニ顕円成真性一云ニ唯識一先第五唯識正体智契ニ証真理一時一切境相皆不ニ現前一唯識理余相皆尽位心躰云ニ唯識一也雖レ有ニ五重不同一唯識言所レ表只有為有漏八識也行者観門専在ニ初重一歟其故一切迷以ニ二執一為レ本二執起依レ存心外実境然此心外境全能縁自心勢力所ニ変現一也観心外境相止実ニ何物一起ニ二執一此時遍計所執不レ起円成真理顕也如レ先観時以レ義分ニ五重一也二性者此宗判ニ一切法一事不レ過ニ三種自性一即一々諸法上三重義分也一遍計所執性凡夫当レ情所

（9右）

レ現スル心外ノ諸法也躰用都無ニシテ非ニ聖智ノ境ニ一ニハ依他起性有為ノ諸法也即人畜草木等ノ森羅万象也従ニ衆縁ニ生シテ無ニ自然ノ性ニ非有似有ニシテ後智境也其ノ衆縁ト者即四縁也一ニハ因縁諸法ノ種子也二ニハ増上縁除テニ自体ヲ所余ノ不レ障レ生ヲ諸法也三ニハ所縁々心々所ノ境界也四ニハ等無間縁前念心々所等ク為ニ後念心々所ニ成ニ開道ノ縁ト一也色法ハ依テニ因縁増上ノ二縁ニ生シ心法ハ必ス具シテニ四縁ヲ一生スル也決定シテ無ニ一縁生ノ法ニ三ニハ円成実性即法性ノ理也依ニ人法二空ニ所レ顕ス諸法真実ノ性円満成就ノ故ニ云ニ円成実性ト一百法ノ中ニ前ノ九十四法ハ依他起性六無為ハ円成実性也遍計所執ハ無法ナルカ故ニ不レ入ニ

（9左）

法ノ数ニ此ノ三性ハ摂論ニ解㉗ニ蛇縄麻ニ以ニ三性ヲ一為ニ究竟了義ノ中道ト一遍計ハ此ノ法ノ空ノ義依円ハ此法ノ有ノ義也又三無性ト者相無性生無性勝義無性也如ク次ノ遍計依円ノ空ノ義也三無性顕了隠密并ニ後ノ二無性ノ体空執空ハ宗ノ大ナル諍ヒ也但体空ノ義実ニ所レ遮スル所執歟唯識ノ道理ヲ成立スル事ハ種子熏習ト四分安立トノ二門也種子熏習ト者有為ノ諸法ノ生スル事ハ以ニ各々ノ自ノ種子ヲ一為ニ親因縁ト一吐ヲ各々ノ現行ヲ一云ニ諸法ノ生ト一也彼ノ種子ト者心々所ノ諸法ハ有ニ勢用ヲ一故ニ各々熏ス自種ヲ一異熟無記等ノ無ニ勢用ヲ一心ハ自不レ能レ熏スルコト種ヲ縁ニ彼ノ法ヲ一第六識等熏スル自ノ相分ノ種ヲ一時熏ニ彼ノ法ノ種ヲ一也諸ノ色法モ又各々能縁ノ六識カ熏レ之ヲ

（10右）

熏ト者心起テ謝滅スル時其ノ残習猶ヲ留ルレ心ニ々ト者第八識也自心ノ微細ナル底也所レ留ル残習ノ気分ヲ云ニ種子ト一後時ニ法生スル時ハ彼ノ気分ヨリ生スル也故ニ自心ノ分別ノ勢力ノ之外ニ生スル法更ニ無レ之四分ト者心ノ発用ノ分限也故ニ云レ分ト此ニ有ニ一分二分三分四分異計ノ不同ニ一護法ヲ為ニ正義ト一立ニ四分ヲ一相分二見分三自証分四証自証分也此ノ四分ハ一念心ノ上ニ必ス具足セリ分ツ心境ト一時後ノ三ハ心也云ニ体用ト一時ハ初ノ二并第四ハ用第三ハ体也然トモ第三ニハ具ニ体用ノ二義ヲ一当テレ心ニ所レ現スル諸法皆心ノ之自体カ所ニ変作スル也用ハ不レ離レ体ヲ故ニ心ノ外ニ無ニ一法ニ一也四分ノ委曲如ニ本宗ノ釈ノ一矣又此ノ宗判スルニ諸法ヲ一以ス三科ヲ一五蘊十二処十八界

（10左）

也五蘊者色蘊受蘊想蘊行蘊識蘊也色蘊者十一類色声香味触眼耳鼻舌身法処不レ摂レ色也色有二顕色形色表色一如レ是種々法相繁故略レ之受想心所中二也有下不レ類二余心所一之義上故別立レ蘊行蘊摂レ法尤広行蘊有レ二相応行不相応行也相応行者諸心所也心所有二五十一一即六位心所也其中除二受想二一余四十九行蘊摂也不相応行者廿四不相応也具二如一百法論一識蘊者八識也五蘊不摂二無為法一十二処者六根六境也五根五境如二色蘊一意根摂二八識一法境摂レ法尤広法境有二四品一即色心所不相応無為也色中有二

（11右）

五類一極廻〈空一顕色〉二一極略〈極微〉三受所引〈無表〉四遍計所起〈独影境〉五定果〈定中所現〉此五前五蘊二法処所摂色物也十八界者六根六境六識也全於二十二処一意根中分取二現在六識一為二六数一也故十八界意根末那阿頼耶識并前滅六識也此三科為二迷レ心人一説二五蘊一開レ心為二四蘊一故為二迷レ色人一説二十二処一々々々開レ色為二十二処一故色心倶愚人為説二十八界一々々々十界色八界心故又此宗五姓各別義立大異二余宗一五姓者一決定声聞種姓二決定独覚種姓三決定菩薩種姓以上三云二定姓一不レ転二余乗一故四不定種姓此不定種姓有二

（11左）

二乗不定三乗不定等不同一不定者法爾具二二乗三乗等種子一人也種姓者第八識法爾無漏種子名也具二二種姓一中声聞独覚二種姓具人猶云二定姓一不レ廻二大乗一故無二四智無漏種子一人定無二廻心向大之義一也問声聞独覚種姓者其体何物耶答妙観察智有二生法二空用一其一分生空用法爾種子也菩薩種姓者四智種子也五無姓有情也是永不成仏人也身中曽無二々漏種子一人也立二此五姓一事諸宗不レ許レ之応レ知㊀宗論専起レ自レ茲矣又此宗立二五位一尽二菩薩位一一資粮位〈三賢〉二一加行位〈善根〉三通達位〈見道初地〉四修習位〈除見

（12右）

道余十地〉五究竟位〈仏果〉断惑云先於二所断惑有二煩悩所知二障一此二障各有二分別倶生二一此四各有二種子現行一

資粮加行二位伏位也伏二障現行一通達位断二障分別起種子一是各見惑一修習位所知障俱生種子現行伏断種子云レ
断現行云レ伏也第十地満云二金剛無間道一断二煩悩障俱生種子一何故人執俱生種子至二因満一断レ之為二留惑潤生一也
留惑潤生者於二菩薩一有二類一智増悲増也智増者二乗廻心向大也云二漸悟菩薩一是初地受二変易生死一故無二三界受
生一悲増菩薩者直往大乗菩薩也為二利益衆生一三界受生凡受生必由二

（12左）

煩悩一潤業潤生人執品俱生力也為レ令二潤業潤生一受二界内分段果一故留二煩悩障俱生種子一至二第十地一也前四位間
経三大僧祇一資粮加行二位初僧祇自二初地一至二第七地一第二僧祇八九十三地第三僧祇也劫者大乗芥城巨石劫也若小
乗年月日時劫不レ可レ云三大僧祇一無量無数微去劫数也僧祇者十為レ始十々倍増計至二五十三云阿僧祇一此云二
無数一大劫数至二阿僧祇一数三遍也此宗起レ自二天竺一法相三論二宗出二於護法清弁一護法清弁強不レ及二異論一門
徒互執二師承一致二空有論一正法隠没也正法千年之季学者漸生二異計一故無

（13右）

着天親師子覚請二弥勒一降二閻浮一於二伊舎那講堂一ヘ在二阿曳遮国一ン夜々述二仏所説一無着等菩薩記二慈氏所説一為五部ノ
論一瑜伽顕揚荘厳摂大乗対法論是也世親菩薩ヘ天親也新云二世親一ン撰二五部要義一述二唯識三十頌一護法安慧龍軍無
性等十大論師稟二無着世親説一釈三十頌一造二十部論一玄奘翻訳時十部合為二一部一云二唯識論一那蘭陀寺戒賢論師受二
護法義一伝二玄奘一々々伝来唐朝一授二慈恩大師一如是次第稟伝義淵僧正伝来本朝一授二玄昉行基宣教大師等一其後
慈恩再来善珠忠算等次第伝来矣

（13左）

三論宗者凡立二宗教一之習通二申一代教義一訪二摂四依論蔵一然殊以二中百十二三論一為二別所依一故世人呼為二三論宗一以
二蔵三転判一代教文一以二二諦四中一顕二一家宗義一二蔵者菩薩声聞二蔵也一代所説不レ出二此二蔵一大論者迦葉阿

難於王舎城結集三蔵為声聞蔵文殊阿難於鉄囲山集摩訶衍為菩薩蔵〈云云〉二蔵的拠也故諸宗於大乗存浅深此一宗唯一味大乗故不許有浅深謂法相三時教第二第三時大乗浅深也天台四教初一小乗後三大釈故大乗中存三重花厳五教又後四教大乗重教也此宗大嫌之

（14右）

三転法輪者一根本法輪花厳経也称性本教故云根本二枝末法輪四阿含経小乗教故云枝末三摂末帰本法輪法花涅槃也開方便門示真実相故云摂末帰本二諦者真俗二諦也此宗所立以二諦為大綱法相三論空有諍起自二諦中論云一切諸法世間顚倒謂有於世間是実名為世俗諦諸聖人真知顚倒性空於聖人是実名為第一義諦法相宗円成真性因縁成事相諸法各別本具正後二智境界故其体非都無思此宗諸法真体一箇空理也聖智知之是為真諦又云第一義諦而凡夫無明被翳惑

（14左）

空理上見種々相謂有人畜草木等万象此森羅万象凡夫妄謂境界故其体無如相宗所立所執是名俗諦法故有於凡実空於聖実釈也故聖智境界不許有事相法但以性空為諸法体故相宗学者三論執空一辺撥無有云也是則余宗不知畢竟空説也当家意離妄有無真空々外無妄有真妄交徹空有不二也是名畢竟空又云無所得空凡簡空見遮単空也偏有単空凡夫妄謂情量也真空遠出妄謂情想何落空見也但仏説俗諦者取凡夫妄謂情不所理外境理外境者当情現都無境也五根所不

（15右）

見之法故説不可説為俗諦凡夫妄情雖迷謬法性随縁体故為仏見俗諦法也故仏説諸法説妄情為諸法不説妄境是以大乗玄〈嘉祥釈也〉有於凡実空於聖実取両情為諦不取空有二境為上躰〈文〉但此釈有重々委曲恐繁略之此宗以八不正観為宗要八不者不生不滅不断不常不一不異不来不去也雖有八不実開

不生一言於此不生有三重説名三種方言初方言第二方言第三方言初方言破定性生凡夫二乗性実執破也第二方言破以生成実并異学大乗等以是執破也以上二箇方言破病顕道也第三

(15左)

方言約平等門本来不生故言不生不言破病也諸法本来不生云不生非必為破生執云不生也於此三種方言各有体中用中用中各有真諦俗諦如是義門繁廣也又立四種性空凡夫二乗等妄謂空為第一凡夫妄謂情破云性空為第二凡夫妄謂境本無云性空為第三因縁和合法宛然当体即空云性空為第四也又此宗以四執為所破一外道二毘曇〈小乗有部也〉三成実四異学大乗也異学大乗者大乗中学教成迷人也法相末学即其類也思又此宗立二種生死分段変易也相宗雖立之彼変易増寿変易

(16右)

只分段依身以無漏定願力資助令延寿自在故実無二死也分段六趣果報是云界内生死変易界外浄土果報也是云別尽別生変易但於変易有三種一微細生滅変易〈又云通於凡聖変易〉二縁照無漏変易〈又云該大小変易又云聖有凡無変易〉三真証法身変易〈又云此唯在大変易〉浄土受生変易者第二又立八識事異相宗此宗仏性随縁云成法以諸識根本第八識為仏性真識七転識一向為妄識浄影大師於八識立離分共相二箇八識離分八識如前但於共相八識立事妄真三種事識者前六識凡夫二乗等所用也妄識者第七末那集

(16左)

用六識於此妄識中有見色聞声等六能十地菩薩所用識也真識者仏果所用此又有集用六識法性上六識作用也共相八識者皆真妄和合起信楞伽離分八識瑜伽唯識等共相八識也浄影義非全同三論然大途相似故本朝三論学者兼学之此宗師承正法千年之末那蘭陀寺同時有二人大徳一云戒賢一云智光戒賢論師法相宗々師先段在之智光論師清弁菩薩法嗣也此両大徳諍空有義彼寺一万三蔵大途両大徳門下也清弁受龍智々々受龍樹

如来滅後五百年大乗教流伝幽微歟至二六百

（17右）

年馬鳴菩薩広釈二大乗経一造二百部論一然法化不レ弘五天小乗学者馬鳴述二大乗空義一嘲云二空論比丘一〇百年時竜樹出興造二千部論一盛興二大乗一三論者中論十二門論竜樹所製百論提婆所造也提婆弟子羅睺羅々々々弟子青目々々弟子車沙王子也車沙王子稟二承提婆一智光義授二羅什三蔵一什公来二後秦朝一授二生肇融叡等八宿一松嶺道朗法師受二八宿義一展転至二金陵吉蔵大師一〈号二嘉祥大師一〉製二三論疏一広摂二一代教義一故此宗以二嘉祥一為二宗家一吉蔵弟子高麗恵灌伝二来日本一授二福亮法師一其後智蔵道慈善議勤操等相承已上

（17左）

両宗云二権実一宗一時云二権教一云二三乗一乗一時云二三乗教一也法相宗立二五性各別義一計二三乗定性一云二三乗教一尤有二其謂一二論宗談二一性皆成旨一専簡二五性各別宗一何云二三乗教一耶尤可レ謂二一乗教一耶尤花厳天台為二一乗宗一事二乗方便一乗真実云故也今宗仏説二三乗一其中菩薩為二真実一以二一乗一為二方便一設法花説二三乗方便一実方便但云二一乗一也着二垢衣一長者居二師子床一長者々々是一也約二今簡異一説二三乗方便一約二其内身一非レ有二二人一長者一故不レ許二別有一乗一云二三乗教一也又権教者不レ顕二実理一之名也一乗教者指二一乗理一為二実理一相即

（18右）

円融無碍教義也然一論宗対二説二乗一二中一為二一乗一故設雖二仏乗一其義浅近未レ及二十々無尽三諦即是法門一故一乗宗学者猶云二権教一也

天台宗者智者禅師以二法花一為二依経一立二四教五時一摂二一代教義一述二会三帰一之旨一示二開権顕実之義一為二随朝国師一学徒称誉居二天台山一従二所居地一曰二天台宗一此宗非二印度相承一恵聞禅師修二法花三昧一所二証悟一法門也無二師承一故入二経蔵一批手捜二得大智度論一故以二龍樹一為二祖師一以二所悟宗旨一授二南岳〈天台山本云二南岳一〉恵思禅師一恵思大師

授二智者禅師一四教者蔵通別円也三蔵教者

（18左）

小乗教也通教者大乗浅教也蔵通二教各説二三乗一三蔵教三乗各行二諦縁度一謂声聞四諦支仏十二因縁菩薩六度也通教三乗通行二諦縁度一故云二通教一同性経二乗共十地菩薩大品三獣渡河此教本拠也別教者諸経呵二一乗一明二菩薩一説也前二教三乗具明此一教唯明二菩薩一故云二独菩薩教一花厳等傍交二別教也四円教開二会爾前三乗一為二仏乗一明相即円融義一故云二円教一此四教初一小乗後三大乗釈有二化儀化法一四教一故云二八教一也化儀四教者頓漸秘密不定也蔵通別円四教云○㊱化儀四教化法四教一々具レ之五時

（19右）

者初時花厳経曰二擬宜教一以二一実円頓教一擬二宜大小権実諸機一故第二時阿含経曰二誘引教一花厳会上声聞僧聞二仏説一如聾如盲故為レ誘二彼機一行二鹿野苑一脱二瓔珞細煙之衣一着二麁弊垢膩之衣一現二老比丘形一十二年之間説二四阿含一也四阿含者増一阿含〈明二人天因果一〉長阿含〈破二邪見一〉中阿含〈明二真窮深義一〉雑阿含〈明二禅定一也〉第三時方等経即楞伽思益維摩等経也曰二弾呵教一弾二呵鹿苑証果之声聞一譬二癡狗等一故第四時般若経即諸部般若也曰二淘汰教一淘汰二方等弾呵機一欲レ令レ入二純円一実教一故第五時法花涅槃曰二純円一実教一遮二爾前〈法花以前諸経云二爾

（19左）

前教一也〉三乗別教一令レ生二唯一仏乗解一故也般若方等説時合三十年内方等十二年般若十八年歟或般若方等雑説本宗有二二義一歟阿含十二年法花八年合五十年説法也花厳成道第二七日之説也此五時以二涅槃五時一為二本拠一初後仏会円頓義斉釈故花厳為二一乗経一然花厳猶帯二別教一故不レ及二法花純円一照二高山一光未レ及二幽谷一法花涅槃大経可摂切依法花釈同味教涅槃猶不レ如二法花一思故以二法花一定二出世本懐一唯以二一大事因縁一故出二現於世一之説独在二法花一耶又此宗以二一念三千法門一為下超二爾前一規模上三千者十界各

（20右）

具ニ十界一百界也此百界具ニ十如一千如也十如者法花第一説ニ如是性如是相等一是則諸法当体全是心也此千如ニ各々具ニ三諦一三千也介爾有心即具ニ三千一釈縦起ニ一念一時三千性相宛然故阿鼻依正処ニ極聖之自心一毘盧身土不レ超ニ底下之一念一釈又此宗相即三諦為ニ宗要一爾前諸教三諦義隔歴所謂妄謂非実法為ニ似諦一会ニ帰法性一見レ彼仮全空云ニ空諦一此空仮二諦相待似立実相本理超ニ出待対之域一非空非有為ニ中道一是名ニ隔歴三諦一然此宗三諦法性之上三種妙理故云レ仮空中挙仮強不レ可レ作ニ仮思議空中一又爾也

（20左）

是云ニ不思議三諦一何故如レ是聖智離ニ局量一法体円融故也又立レ位為ニ六即位一理即名字即観行即相似即分真即究竟即也理即一切衆生本有仏知見性也名字即聞ニ一乗名字一位也観行即有ニ五品一天台大師居ニ此位一相似即十信位法花法師品所説六根浄位也南岳居ニ此位一分真即三賢十聖究竟即仏果也断惑立ニ三惑一見思八執品見修二惑也一塵沙余教不レ立ニ此名一此宗不共名目也大途当ニ法執品惑一歟以ニ起信過恒沙等上煩悩文一為ニ依憑一〈云々〉然業転現智相々続五意也三無明当ニ起信根本無明一歟見思界

（21右）

内事理惑見障レ理思障レ事塵沙無明界外事理惑塵沙障レ事無明障レ理又以ニ三惑一配ニ当三諦一見思障レ空塵沙障レ仮無明障ニ中道一也相似即位断ニ見思塵沙一於レ中初信断レ見第二信至ニ第七信一断レ思八九十三信断ニ塵沙一十信断レ惑大異ニ余家一三賢十地等妙二覚四十二位断ニ四十二品無明一但元品無明等覚智断妙覚断宗大浄也余宗入位断惑々々入位二義有如於ニ仏位一立ニ四土六身一四土者同居有余実報寂光也六身者先立ニ三身一各開ニ二身一也法身二一理法身智法身也報身二一自受用他受用也応身二一勝応身劣応身也

（21左）

法身居二寂光土一報身居二実報土一勝応身居二有余土一即葉上土也劣応身居二同居土一々々有二浄穢一同居穢土一即娑婆
雑染世界也同居浄土如二安養世界一也凡聖同レ居云二同居一於二此中一自受用仏実報寂光宗大異義也　問爾前諸教弾
呵二乗一淘二汰菩薩一二乗方便仏乗真実義述法花一唯此一大事実余二即非真説不レ異二爾前一何強爾前大乗下二三乗
教一法花独開二一乗教一耶　答此事粗在二前段一凡一乗教義理可レ顕二此事一爾前一向呵二乗一々々外談レ有二仏乗一依レ
之或立二五性各別義或不レ顕二二乗成仏之旨一是則以レ仏為二新成

（22右）
妙覚之仏一不レ顕二久遠実成理一故也仏乗義狭少也況又簡二異二乗一仏乗雖二大乗一浅近門也是故三論宗以二八証六文一
証一三乗四乗義一終以二三乗一為二定量一不レ知二大乗浅深一嘉祥釈曰於二一仏乗一方便説レ三次云一乗是実余二是方便
如下人手内実有二一菓一方便言中三菓上次第論者一菓是実二是方便一故方便説二三及二是方便一是一義不二相違一也
〈文〉因レ之花厳香象大師以二十箇証文一証下二乗之外有二一乗一之旨上妙楽遍尋二法花以前諸教一実無二二乗作仏之文一
釈不レ開二説本有仏知見性一故無二二乗作仏之説文一也是知一乗妙理只在二久遠

（22左）
実成之旨一一念三千之法門三諦即是玄義併久遠実成之上一所二開出一義門也
華厳宗者杜順和尚行二華厳三昧一所二証悟一法門授二智儼法師一智儼弟子香象唐則天皇后代於二宮中一講二花厳一至二賢首
品一感二天雨花一仍号二賢首大師一造二晋経〈六十花厳也〉疏一云二探玄記一以二香象大師一為二此宗々家一立、五教一摂二一代
教一小始終頓円也小々乗教始諸経事也理各別明レ以レ空為二実理一説并瑜伽唯識等行位因果法門一為二始教一空大乗始
故云二始教一雖レ非下与二相宗一全同上　大途法相也終教者諸経如来蔵随縁成二諸法一説教門也

（23右）
起信論即終経性相也正当二生滅門一有　大乗終極故談二如来蔵縁起旨一号二終教一頓教諸経呵レ教勧レ離説当二起信真

如門ニ言説頓ニ絶理性頓顕外行頓成故云ニ頓教ト一刊定師以レ此為レ教事破ス也天台四教花厳五教此頓教ノ開合也澄観〈清涼大師也〉釈曰天台所ニ以不レ立者以下四教ノ中皆有中一絶言上今乃開別為ニ一類離念機一故即順ニ禅宗一〈文〉又円教有レ異同別立不立也円教一乗教此宗有レ二同教一乗別教一乗ト是也倶一乗同教一乗浅別教一乗深也其故同教者同ニ三乗一別教者別ニ三乗一是云ニ所流所目一同教所流別教所目也同教一

（23左）

乗心機根劣直為下難レ入ニ一乗一者上一仏乗分為ニ三乗一彼三乗自ニ一乗一所ニ流出一故云ニ所流一一切法門先許ニ三乗ノ意楽一実一乗也開会スル也別教一乗心三乗法本来直ニ一乗也云ニ三乗一乗譬如ニ網与一レ目也一乗惣体三乗別目也故云ニ所目一也凡一切法門以ニ仏意一為レ本仮令見ニ霊山一同教一乗娑婆霊山実々報浄土也即染帰浄土是也別教一乗以ニ蓮花蔵世界一為ニ本体一花蔵世界中霊山云也花厳説ニ別教一法花多分説ニ同教一乗一也故花厳説ニ三乗一声聞如聾如盲也三乗即一乗故小根隔レ聞也法花以ニ三周声聞一為ニ所化一廻小入大

（24右）

也開方便門示真実相説四十余年未顕真実演三乗一乗本末証也以レ此為ニ花厳天台二宗浅深一也花厳経成道第二七日ノ説也付レ之有ニ異義一天親十地論載ニ経文一云ニ成道第二七日一釈下初七日定不説法旨上故以ニ第二七日義一為レ正然円融無尽法門説故相ニ入スル九世一故一代三百余会悉摂ニ花厳会座一也宗釈〈清涼大師也〉始従ニ鹿苑一終至ニ双林一三乗一乗場地頓演〈文〉場地者菩提場也故花厳経雖ニ七処八会一只菩提道場処七処往来スル也不レ起ニ寂滅道場一天上四処人中三処非レ無ニ往来一自位不動而恒去来故第二七日雖レ摂ニ一代一非レ

（24左）

無ニ時長短一九世相入スル故如ニ所説法門十々無尽一説法時処等又随テ爾也或人第八会以レ有ニ舎利弗等声聞一第八会後時ノ説也云不足言事也此宗立ニ行位一有ニ行布円融二門一行布門五十一位円融門一位摂ニ一切位一行布是教道施設円融即

普法正位也釈又三生成仏者一見聞生〈十信〉二解行生〈三賢十地〉三証果海也三生隔生一生義分一生義以二功徳転生一為二三生一如二真言十六大生一也凡此宗断惑行位等以二終教法相一下地其上談二円融無碍義一円教行位也所断惑一即一切終断二一断一時一断一切断也故所得法門一得一

（25右）

切得所成功徳一成一切成也是則事々無碍故也三種円融者事々理々事理無碍也此中以二事々無碍一為二一宗規模一成二此事々無碍義一事依二十玄縁起六相円融一十玄祖師義立也六相出二本経十地品一至相大師〈智儼事也〉見二花厳経一一微塵摂二十方世界一入二遠々劫海一説見レ之大疑以二自力不一レ堪祈二冥感一空中有レ声可レ思二惟六相義一〈云々〉其後見二六相文一一多相容義煥然〈云々〉六相者惣別同異成壊也香象大師以レ造二一舎一喩二顕六相義一舎是惣棟梁椽柱等諸縁是別惣非レ別故惣全別也別非レ惣故別全惣也惣舎若別棟梁等如

（25左）

何成二惣舎一棟梁等若惣舎如何棟梁等別々々故能成レ舎惣々故能成二棟梁一同異者諸具各成二一舎一同也其作用同故棟梁椽柱各々作用別異同異相容又准二惣別一是時棟梁椽柱各々具二棟梁椽柱一義成也成壊者諸縁成二一舎一成也諸縁非レ舎壊也成故壊也壊故成レ事又如レ前棟若成レ舎々非二棟一所成一故改レ棟可レ為レ梁可レ為レ椽是棟可レ成レ舎臭也然棟不レ居二其位一舎忽破壊棟不レ守二自位一不レ成レ舎時此舎能成豈非二壊故成一乎成故壊事又可レ准二思之一此宗有二四勝身成道一龍女善財普荘厳童子都率天子也此等皆一生一身尅二

（26右）

証普賢果一都率天子在二地獄一時仏初成道足下光明照二地獄一与二光触益一速出二地獄一生二都率天一聞二金鼓説法一至二離垢定前一々々々者因満也此天子宿因過去聞二花厳経一誹謗為レ因宗師釈故見聞生死自聞謗非〈云々〉善財童子仏初成道時覚城東際沙羅林間文殊説法聞レ之得二十信一因二文殊指示一次第南方知識求是則入二菩提道一事智恵為二前

道ニ表法也徳雲比丘以後四十人遇得三賢十地四十地ノ摩耶已下十一人遇同得ニ等覚法門ヲ弥勒再見文殊普賢三人因位窮満也是云ニ五十五知識ニ除テ再見文殊普賢ヲ云ニ五十二ニ

（26左）

再見文殊堯城東際出レ手遙過ニ一百一十城ニ摩ニ善財頂ヲ是則歴ニ中間諸位ニ乃至ニ因満ニ最初所得菩提心也表也又此宗教主曰ニ十身具足盧遮那ニ故諸宗三身四身仏者吾家教主一分身当云也十身有ニ行境解境十身ニ頌曰菩提願他力時身相好荘厳威勢身意生福徳法智身〈行境十身也仏身功徳也〉衆生国土業報身声聞縁覚菩薩身菩提智法虚空身〈解境十身也〉該ニ摂三種世間ヲ為ニ盧遮那ニ也三種世間為其身心説解境十身也融ニ摂三種世間ヲ為ニ仏身ニ故諸仏身内衆生念々断レ迷衆生身中諸仏新々成レ覚云也凡法門以ニ当相即道ニ

（27右）

為ニ大綱ニ故善財ノ知識自在童子計レ砂婆斯羅船子漕レ船此強非レ顕ニ直以ニ計箅ニ説以ニ風帆ニ教也又勝契婆羅門火聚刀山即是般若無分別法解又此宗立ニ因果二分法門ニ遮那果人所証為ニ果分ニ普賢因人所了為ニ因分ニ只於ニ諸法ニ寄レ言詮顕云ニ因分ニ即十玄六相等十々無尽法門也法々居ニ自位ニ不レ寄レ言云ニ果分ニ所以者何理円言偏言生理喪十玄六相法門言レ之不レ謂不レ称ニ法体ニ然十々無尽重々隠映法争一言可レ顕レ之是故十地品ニ我但説一分説天親菩薩釈レ之一因分二果分因分可説果分不可説〈文〉

（27左）

本云中性院之務聖憲依ニ或人ノ所望ニ為㊱犬鳴ニ記レ之給〈云云〉

王心鈔者聖憲二字各々下王心取王心鈔付給也

依ニ運敞和尚之命ニ書ニ写之ニ

明暦二年春正月日　文操

（朱書）安永八年己亥六月以智積院密厳堂経庫㊶運敞僧上所持之御本書写了

金剛仏子浄光

文化八年春閏二月以二浄光僧正本一謹写其本観如阿闍梨所蔵也

求法沙門武州慧岸

（朱書）光和上以朱毫往々校合之了　於大報恩□□□岸謹記

**註**

① 中世の仏教綱要書については、岡本一平「日本の仏教綱要書について」（『駒沢大学大学院仏教学研究会年報』三二、一九九九）、拙稿「存覚撰『歩船抄』における聖道門理解―華厳宗項の検討を中心に―」（『真宗研究』五五、二〇一一）

② 頼瑜の『諸宗教理同異釈』・『顕密問答抄』については、末木文美士「頼瑜の諸宗観」（『新義真言教学の研究』、二〇〇二）、養輪顕量「頼瑜にみる南都教学―『諸宗教理同異釈』を中心に―」（同）参照。

③ 『結網集』巻中「建長初、之二南京一、寓二東大寺一学二三論華厳一。往二興福寺一習二瑜伽唯識一、兼受二密乗之秘訣於真言院一。」（日仏全、三八九頁下）

④ 平成二〇年～二二年度科学研究費基盤研究（B）「智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究」（研究代表者・宇都宮啓吾氏）における成果として以下の論文がある。宇都宮啓吾「智積院における聖教の継承と集積―新文庫聖教を手懸かりにして―」（『智山学報』六〇、二〇一一）、『智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究』（二〇一二）等参照。また、華厳学を中心とした根来寺僧の教学受容については、拙稿「智積院新文庫蔵『華厳五教章』注釈書にみる中世後期の華厳学」（『印度学仏教学研究』六〇・二、二〇一二）、「智積院新文庫蔵の倶舎・因明・法相関係資料について」（『根来寺聖教の基礎的研究―智積院聖教を中心として』代表者：宇都宮啓吾、基盤研究（B）研究成果報告書、二〇一四）参照。

⑤ ラフカディオ・ハーンの仏教理解については、来日前後における仏教の素養や、『涅槃』など仏教を題材とした作

品の分析を中心に前田専學氏による詳細な研究がありきわめて有益である（前田専學「ハーンの来日前の仏教観　ハーン著『仏教とは何か』の邦訳・解説・注記」『人間研究』四、一九九九、／「小泉八雲の仏教観」『駒澤大学佛教学部論集』二八、一九九七など）。ハーンはアメリカ在住時代から仏教に強い関心を持っており、明治期という近代仏教学の黎明期に日本にわたり多くの仏教関係資料を収集している。なかでも和漢書については従来検討がなされていないが、以下に示すように祖師伝や『往生要集』を中心に全一六点がヘルン文庫に所蔵されている。『王心鈔』を除くいずれもが明治以降の刊本であることから、本書は蔵書のなかでも異彩を放つ。ただし和漢書の収集についてはハーンの妻セツの関与が大きかったとされ、実際にハーンが日本仏教の教理的な文献をどこまで読み込むことができたかについては検討の余地が残るであろう。ヘルン文庫における仏教関係の和漢書を『富山大学附属図書館所蔵ヘルン文庫目録　改訂版』（富山大学附属図書館、一九九九）より挙げると以下の通りである（［　］内は書架番号を示す）。①盆供施餓鬼問弁全、興正寺諦忍著（京都・藤井文政堂、一七六六、明和二年刊）［2387］、②仏教百科全書、仏教書院編（東京・仏教書院、一八九八）［2143-2433］、③仏教各宗高僧実伝、博文館編輯局校訂（東京・博文館、一八九八）［2102］、④仏法僧、珍本全集中巻（東京・博文館、一八九八）［2093］、⑤仏学三書、野村淳達校（京都・須原勘兵衛、一八七九）［2374-2377］、⑥伝教大師伝（仏教各宗高僧実伝、東京・博文館一八九八）［2102］、⑦永平道元善師行状図会（仏教各宗高僧実伝、東京・博文館一八九八）［2102］、⑧極楽物語（往生要集下、京都・三書堂、一八八四）［2380］、⑨地獄物語（往生要集上、京都・三書堂、一八八四）［2378］、⑩各宗必携仏学三書、元、利、貞、亨、野村淳達訂・下間安海訂（京都・須原勘兵衛、一八七九）［2374-2377］、⑪弘法大師行状記（仏教各宗高僧実伝、東京・博文館一八九八）［2102］、⑫王心鈔（慧岸写、一八一二、文化八年）［2358］、⑬往生要集上、中、下、吉見重三郎校（京都・三書堂、一八八四）［2378-2380］、⑭六道物語（往生要集中、京都・三書堂、一八八四）［2379］、⑮両大師伝記（仏教各宗高僧実伝、東京・博文館一八九八）［2102］、⑯正法念処経、第1冊1第14冊［2359-2372］

⑥　なお、ヘルン文庫本では「為犬鳴」の「為」字を「於」字の誤記とする。また、「為犬鳴記之給」とする表現は文字通り「犬鳴のために」と訓んで「犬鳴に住する寺院あるいは人のために記した」と解することも可能である。

⑦　本書を聖憲の著述とみなすことは、『密教大辞典』「聖憲」項、『仏書解説大辞典』、『国書総目録』などに共通し、宮坂宥勝氏も聖憲の著述として記すなど（「智山教学について―序説―」『現代密教』九、一九九七、一七頁）、現在とのところとくに疑義が示されているわけではない。もっとも、聖憲自身による本奥書などがない以上、厳密には断定

できない。ただ後述するように、聖憲の著述と共通する内容を本書が有していることは注意しておきたい。

⑧『結網集』巻中、日仏全六八、一〇六頁下。なお聖憲の生涯については『結網集』の他、『本朝高僧伝』巻十七、『東国高僧伝』巻十がある。また粕谷隆宣氏は「中性院聖憲師と阿字観」（『新義真言教学の研究』所収、二〇〇二）において聖憲の師である根来寺中性院第三世増喜、根来寺迎接院順継との師資関係について考察しており有益である。

⑨久米田寺における華厳については、納富常天「久米多寺盛誉について」（『華厳学論集』、一九九七）、「泉州久米多寺について」（『金沢文庫資料の研究　稀覯資料編』、一九九五）参照。

⑩小山靖憲『中世寺社と荘園制』（塙書房、一九九八、一六三～一七六頁）

⑪『政基公旅引付』の引用は、『新修泉佐野市史』（第五巻、二〇〇一年、一七〇頁）参照。

⑫井田寿邦「中世の村と葛城修験―犬鳴山七宝滝寺と入山田寺―」（『山岳修験』三八、二〇〇六、三二頁）参照。

⑬初就教弁同異者、大分別有五宗差別。所謂大乗四宗（筆者注：法相・三論・天台・華厳）各立教相。諍論挙旗鼓、自他成鉾楯。然今真言宗察四家判浅深、顕此自宗為究竟也。（大正七九、五五頁中）

⑭八点に対する言及をまとめると以下の通りである。①断惑について小乗では人執のみ断って法執を絶たないこと、②六識を立てるが七・八識説を知らないこと、③分段生死のみで変易生死を立てないこと、④三界の分斉を説くが界外の浄土を建てないこと、⑤仏の四智のうち妙観察智のみしか得ることができないこと、⑥三千世界を説くが無数世界を説かないこと、⑦無余涅槃を究竟として仏果を知らないこと、⑧一仏の出世は十方世界であるとして須弥山世界の一々に一仏が存在することを知らないこと（同、六右）。なお、これは空海が『十住心論』巻四「唯蘊無我住心第四」の「大意」において声聞乗の特徴を端的に述べた箇所を念頭に置いたものと考えられる（大正七七、三二九頁中）。

⑮大正七九、五六頁中

⑯澄観『華厳経疏』巻一「四頓教者。但一念不生。即名為仏。不依地位漸次。而説故立為頓。如思益云。得諸法正性者。不従一地。至於一地。楞伽云。初地即為八。乃至無所有何次等。不同前漸次位修行。不同於後円融具徳。故立名頓。頓詮此理。故名頓教。天台所以不立者。以四教中皆有一絶言故。今乃開者。頓顕絶言。別為一類。離念機故。即順禅宗。」（大正三五、五一二頁中）

⑰例えば、以下の用例がある。寿霊『華厳五教章指事』「若依此文、法華中亦説別教義、華厳経亦有同教義。何以故

法華名同教一華厳日別教一。答。約多分義、目同別耳。」（大正七二、二一一頁中）、凝然『五教章通路記』「法花之一通同別義。今取別教義辺為証。」（大正七二、三〇八頁中）

⑱『諸宗教理同異釈』大正七九、五八頁上

⑲ 華厳又立事事無礙、理理無礙之義。是非理理無辺、智智無数謂。（『諸宗教理同異釈』大正七九、五九頁上）

⑳『華厳経伝記』巻三には以下のように記される。「伝光統律師文疏。稍開殊軫。謂別教一乗無尽縁起。欣然賞会。粗知毛目。後遇異僧来。謂曰。汝欲得解一乗義者。其十地中六相之義。愼勿軽也。可一両月間。摂静思之当自知耳。言訖忽然不現。儼驚惕良久。因則陶研。不盈累朔。於焉大啓。遂立教分宗。製此経疏。時年二十七。」（大正五一、一六三頁下）

㉑ 智儼伝を詳細に検討している凝然『華厳孔目章発悟記』巻一（日仏全七、二五〇頁下～二五一頁上）、鳳潭『華厳五教章匡真鈔』巻六、（大正七三、四七四頁下）においてもこうした伝承は記されていない。

㉒ 運敞の著作や教学については、村山正俊「運敞僧正の著作について―聖憲との比較を通して―」（『智山学報』三二、一九八二）、元山公寿「運敞の教学的立場について―聖憲との比較を通して―」（『新義真言教学の研究』二〇〇二）参照。

㉓「皆」→傍に朱字にて「悉」と傍書。

㉔「本」→傍に朱字にて「大」と傍書。

㉕「種」→傍に朱字にて「禅乎」と傍書。

㉖ 朱字にて補入符あり。「知」字と傍書。

㉗「解」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「解　恐鑒字筆誤」と朱書。

㉘「知」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「知　恐和字応和三年良源仲算宗論」と朱書。

㉙ 朱字にて補入符あり。上欄に「経下恐脱二也字一」と朱書。

㉚「家」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「家恐宗字」と朱書。

㉛ 朱字にて補入符あり。「敞本簡落字乎」と傍書

㉜「車沙」→朱字にて顚倒符あり。「八宗要綱」と傍書。

㉝「車沙」→朱字にて顚倒符あり。

㉞「翳」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「叙」と朱書。

㉟「性」→朱字にて「姓」と傍書。
㊱「随」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「隋」と朱書。
㊲「朏」→朱字にて「本ノマヽ」と傍書。
㊳朱字にて補入符あり。上欄に「云下恐脱二化法四教一四字一」と朱書。
㊴「似」→傍に朱字にて圏点あり。上欄に「似恐仮字」と朱書。
㊵「為」→朱字にて圏点あり。上欄に「為恐於字」と朱書。
㊶「経庫」→朱字にて「二十四函」と傍書。

キーワード　根来寺、聖憲、頼瑜、運敞、ラフカディオ・ハーン